全ての民主的学友は民学同に結集しよう！

2/17 全学ストライキ貫徹せよ！

市大当局の沈黙を許さず、闘争体制を継続せよ！

全市大の学友諸君！

"市大学費値上げ阻止、新寮獲得、ろう16斗争勝利"の斗いは、第一波教養ストライキ、第二波2/1→2/7全学ストライキ貫徹の中で大きく昂揚している。

学費―新寮―ろう、16の斗いは、政府独占がその死活をかけて、大衆収奪強化、中教審具体化に乗り出している現在、それと真向から対決する斗いであった。

中教審答申に基づく大学の再編―教育、研究内容の独占的支配の為の管理強化―教官学生の権利の奪と文部官僚の介入、受益者負担主義に名を借りた大中学費値上げ、法人化構想等々、今や、中教審具体化政策が公然と開始されている。（その典型が"筑波大学法案国会上程、新大学管理法案策動"である。）そして、独占資本が、日本資本主義の延命、帝国主義的権益の維持、強化に狂奔し、通貨危機の再燃、円切り上げ等々、諸矛盾の一切を人民に転嫁することで巨大独占体を擁護し、大衆収奪を強行している現在、春斗共斗者を中心に、公労協のスト権奪還、日教組の筑波法案、教員給与の差別的支給など教特法改悪反対の斗いが前進しており、我々はこれらの斗いと連帯し、反独占諸階層の斗いとの固い団結の下、斗うべきであり、ここにこそ斗争勝利の展望があった。

市大学当局は「学長談話」でお茶をにごそうとし、我々の団交要求を拒否し、沈黙と居直りを続けている。そして、学長談話、文学部長発言の中に見られることは、大阪市の"財政難"を口実に、積極的に政府独占の政策に迎合するものであり、断固糾弾しなければならない。

ストライキ期間中斗われた、三波にわたる対市行動、二600名規模での決起は、値上げ策動を続ける市当局に対し重大な衝撃をあたえた。更に各クラスでの恒常的なクラス討論の展開、新寮シンポジウム、学費問題討論会、第一波、大管法シンポジウム、ろう16斗争総決起集会等々は、明確に斗いの方向をはっきりとさし、これらの斗いを大衆的に斗う大きな基盤を構築してきた。

市大全学を覆う巨大な斗いを生みだし、前進させているカは、我が同盟が一貫して主張し、その実現に向け先頭にたって斗ってきたクラス、学科、自治組織を中心とした恒常的な討論の展開、クラス決議の集中、それらを基礎にした統一行動の力である。

そしてこれは、市大の学生運動を分裂と混迷に陥し入れ、それを固定化しようとした、学生"共斗"、革マル派等に対する批判の集中であり、彼らの路線の惨めな破産、セクト主義をはっきりと否定するという宣言であった。

一方、「自共斗」を名のる民青諸君は、一切の大衆運動から逃げ、完全にクラス学友の信頼を喪失している。学友諸君！この様に大衆的決起で貫徹されたストライキをふまえ、沈黙する市大当局を許さず闘争体制を継続していかねばならない。

2/17 市大統一会議

民青

平和と平和共存、反独占民主主義、学生運動統一の為に！

73.2